

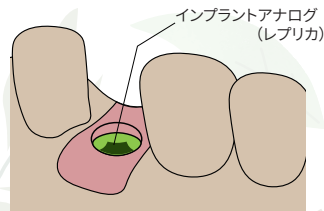


インプラントケースをより確実に!

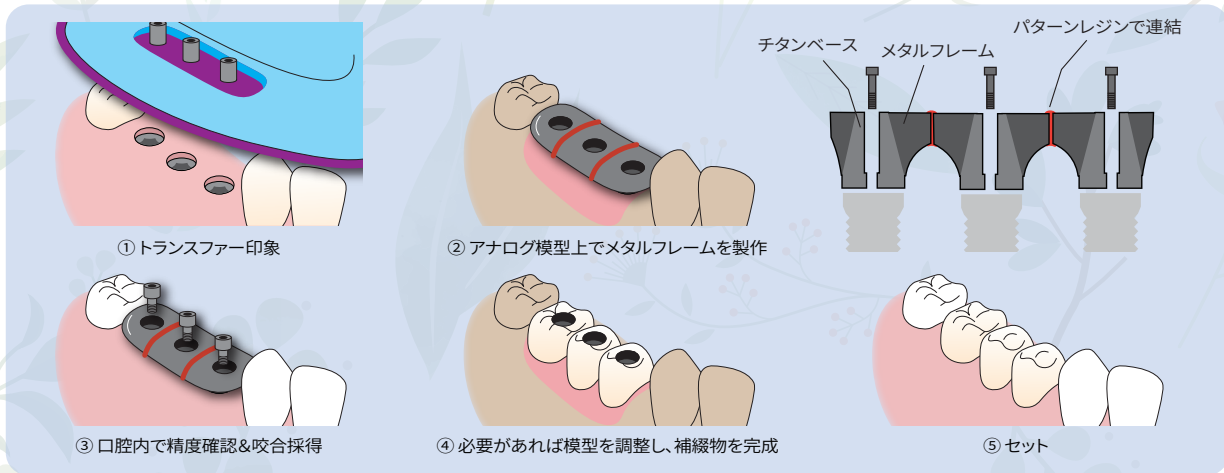
インプラントの補綴製作のほとんどは、口腔内のインプラントの位置・角度を再現したアナログ模型で行われ (図1)、その精度は、トランスファー印象にかかりますが、工程の中には誤差を生じさせる要素がいくつかあるのが現実です。

インプラントは歯根膜が存在せず、補綴に求められる精度は天然歯のそれと比べても高くなりますので、弊社ではブリッジ (または連結冠) の場合に、メタルフレームによる試適 (メタルライイン) をお勧めすることがあります。

メタルライインとは、補綴物製作の前段階で、トランスファー印象の精度を口腔内で確認する方法です。(図2)



【図1】インプラントがアナログで再現された作業模型。



【図2】メタルフレームによる試適の流れ。

最終補綴のセットまでに1度患者様の来院回数が増えますが、大きなケースの再製を防ぐ意味でも有効な方法で、採用いただいている先生も増えてまいりました。是非ご参考にしていただき、同様なインプラントケースでの採用をご検討ください。